

# 2021年度 第1回自治医科大学附属病院医療安全管理監査委員会報告

## 1 日時・場所

2021年10月4日(月) 13:30~15:15

地域医療情報研修センター大会議室

## 2 監査委員

委員長	菱沼 正一	(地方独立行政法人栃木県立がんセンター 理事長)
副委員長	大槻 マミ太郎	(自治医科大学 副学長)
委員	内山 聖	(学校法人悠久崇徳学園 常任理事 (公財)新潟県保健衛生センター 副会長)
	山口 育子	(認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長)
	遠山 信幸	(自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長)

【敬称略】

## 3 自治医科大学附属病院出席者

管理者	佐田 尚宏	(病院長)
医療安全管理責任者	山形 崇倫	(副病院長)
医療安全管理部門責任者	新保 昌久	(病院長補佐、医療の質向上・安全推進センター長)
診療録管理責任者	興梠 貴英	(病院長補佐、医療情報部長)
医薬品安全管理責任者	今井 靖	(医薬品・医療機器安全管部門長)
医療機器安全管理責任者・代理	木村 好文	(臨床工学部技師長)
医療放射線安全管理責任者	森 壘	(医療放射線安全推進センター長)
感染制御部長	森澤 雄司	(病院長補佐)
病院事務部長	篠宮 正巳	

## 4 議事内容

### 1 自治医科大学附属病院医療安全管理について

#### ① 2020年度活動報告及び2021年度目標と中間報告

資料に基づき、医療安全管理部門責任者から①について説明があった。

委員より以下の意見・質問があった。

- ・重要な検査結果の通知に関する取り組みとして、患者参加は何%程度か病院として把握できるとより良いと考える。
- ・院内巡視の部署および頻度について質問があり、少なくとも各部署を1年に1回は巡視するよう取り組んでいることを確認した。
- ・ICのカルテチェックの対象について質問があり、入院を伴う手術については、外来においてICが実施された場合もチェックしていることを確認した。

#### ② インシデント報告件数および報告内容

資料に基づき、医療安全管理部門責任者から②について説明があった。

委員より以下の意見があった。

- ・レベル0の件数が少ないと感じる。レベル0報告には宝物も多い。気付きの文化の醸成のためレベル0報告推進のための方策を検討していただきたい。

## 2 インフォームドコンセント（IC）の実施体制について

資料に基づき、医療安全管理部門副責任者からインフォームドコンセントの実施体制について説明があった。

委員より以下の意見があった。

- ・ICに関連して、同席する家族がいない、保証人がいない患者の入院受入れが全国的な課題であるとの指摘があり、当院での対応状況について確認することとした。
- ・医療機関においては対応が難しい案件（社会的背景を持つ患者対応）については、受け入れに前向きでない医療機関があるのも事実であり、社会全体として捉えていかなければならない問題であると考える。

## 3 2021年度高難度新規医療技術の導入及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供について

- ① 適応外使用医療機器の審査体制について
- ② 高難度新規医療技術の申請及び審査状況
- ③ 特定診療の申請及び審査状況
- ④ 未承認新規医薬品の申請及び審査状況
- ⑤ 適応外医薬品使用の申請及び審査状況
- ⑥ 未承認新規医療機器の申請及び審査状況

各担当部門責任者から申請状況について説明があり、適正に行われていることを確認した。

## 4 医療放射線安全管理の現状について

資料に基づき、医療放射線安全管理責任者から説明があり、適正に行われていることを確認した。

## 5 自治医科大学附属病院における新型コロナウイルス感染症対策について

感染制御部長から県内および院内における取組状況について報告があり、感染対策に引き続き力を入れて取組んでいることを確認した。

## 6 院内ラウンド

本館4階東病棟（婦人科）において、薬剤管理状況の巡視を実施した。

## 7 その他

特になし

## 【講 評】

- 医療安全に関してきちんと対処されており、各病院の手本になるのではないかと感心している。11月に病院機能評価受審を控えており、医療安全の特にICに関しては年々厳しくなっていることから、準備されているかと思うが、今後も医療安全管理体制を維持していただきたい。
- 各病院における役割は、地域によって求められるニーズが違ってくると思うが、コロナ対応含めて、栃木県内における最後の砦として、尽力している様子が伺えた。
- 組織が大きくなると、様々な課題を実現するために多くの労力を要し、なかなか進めるのが難しいが、貴院はフットワークが軽く、アイディアから実現までがスムーズに動いておられることに感心している。

- ほぼ、完成形に近いと思われるが、医療の発展や社会の変化による課題等に対応し、その成果を情報発信していただきたい。
- 医療安全監査委員会が始まり、丸5年が経とうとしている。課題に対して一つずつ計画を立ててこられたことを、今回改めて感じた。せっかく取り組んでいることも、患者に確認してもらおうということも、一部にとどまってしまっているのであれば非常にもったいないので、今まで取り組んできたことがどれくらい徹底されているか、出来ていないとしたらどのような原因があってどんな対策が必要かということ次なる課題として、是非とも取り組んでいただきたい。
- コロナに関しては、様々な監査委員会でお聞きするが、地域差・温度差があることを、本日改めて感じた。東京・大阪ではデイルームで面会が出来るところは聞いたことがなく、夢みたいな話で実現できていないのが現状である。面会が出来ないことの家族の気持ちを受け止めていただき、出来る時に出来る範囲で取り組んでいただければと思う。
- この2年間はコロナ対策で、非常に苦労されたことと思う。医療安全に関しても非常に制限された時期で、集合研修が出来ないとか、対面式の教育指導・個別指導が難しいとか、コロナ特有のインシデントが発生したりなど、想定外のことが起こっている。今後も新たなインシデントが出てくると思われるので、小さいうちに対処すること、そして、継続的に取り組んでいただきたい。